2017 年 5 月 22 日

Ang Tong special Education Center

住所　63/1 Moo Gambol Jampalor Quahog District Ang Tong province

学校全体写真

2017 年 5 月 22 日

学校での贈呈式の模様

今回訪問した Ang Thong Special Education Center はアントン県の 7 つある障がい者学校の中核をなしている学校である。またここより各 7 つの学校に子供達にあった車椅子を配布されている。

今回贈呈された学校の内 Ang Tong Special Education Center 1 校を訪問してまいりました。私は子供達また親御さんにインタビューを出来ればと思っておりましたが、現地学校のご好意により再度学校で贈呈式を行うことになりました。現地の学校のスタッフに感謝しております。贈呈式の内容はタイ語だった為に理解はできませんでしたが、大変感謝している旨の通訳をしてもらいました。また学校の生徒達にお菓子を持参し学校を訪問いたしました。

会場の様子です。

2017 年 5 月 22 日

学校での贈呈式後の記念

2017 年 5 月 22 日

Buz君インタビュー

Buz 君と記念撮影　左の車椅子の男性が
APHT の担当者 Kittipong 氏

右側車椅子の男性がアントン県の七つの学校を統括している責任者の方。

Buz 君　3 歳　お母様は仕事の為来られる事が出来ず。代わりに先生にインタビューをしました。

今回贈呈の車椅子が来る前は、バギーを使用。以前のバギーでは前のめりに転倒して、おでこに怪我をしとても痛かったと言ってました。今回の車椅子には転倒防止のベルトがついており、もう転倒する心配がなく嬉しい。また自分で車椅子を動かす事が出来る。なので遠くへも行ける。一度海を見てみたいと言っていたのがとても印象に残っております。

責任者の方が使用しているタイ製の
車椅子　Thai Wheel 製

Thai Wheel 製車椅子。

2017 年 5 月 22 日

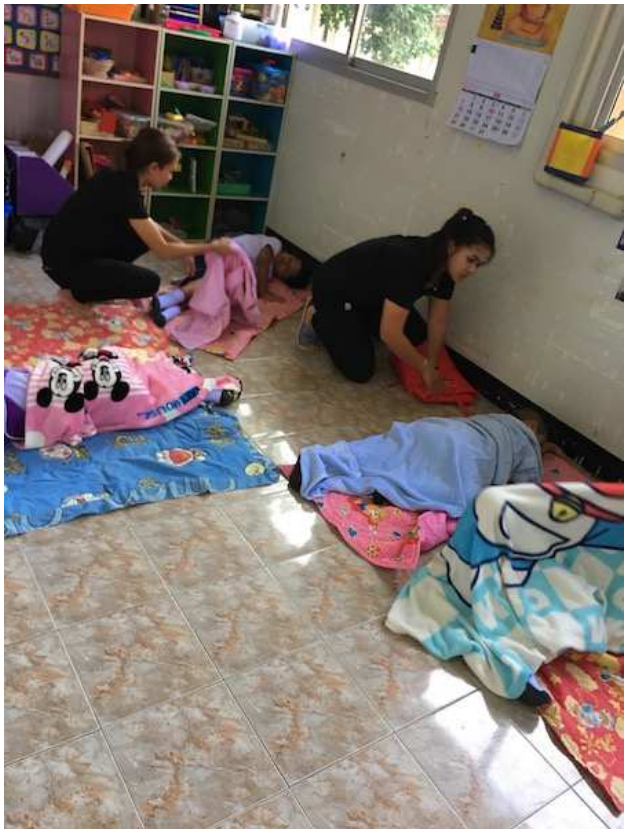
Kimちゃんインタビュー

お母様　Warumon さん（24 歳）3 人お子さんがいらっしゃる。
お子さん　Piyapon 通称 Kim ちゃん。学校にはお母様がオートバイで送っている。学校に通い始めて 3 日目

以前は村のコミュニティーの近所の子供の車椅子を使用。
今回、病院より APHT（タイ障がい者団体）を紹介され今回学校で今回贈呈された車椅子のうち一台を学校内で使用している。

家ではお母様が Kim ちゃんの面倒を見ている。以前の車椅子は子供用ではあったが木製で、とても重く移動がとても大変とのこと。現在学校で使用している車椅子はとても軽く移動及び安定していて子供にとてもフィットしていて扱いやすくとても快適だとの印象をおっしゃってました。

休憩室



作業室

日本の SAORI という織り機がありました。　生徒のリハビリ及び収入に当てております。

織物の材料

カウンターパートーの Kittipong 氏、アントン県障害学校統括責任者及び先生と記念撮影

生徒さんたちが作ったマフラーをいただきました。

プレイングルーム

各種プレイ用具　及び　訓練

音や光からアプローチをする部屋

音や音楽また光などから感覚からの刺激でのリラックスまたリハビリルーム

2017 年 5 月 22 日

コンピュータールーム

上記写真の会社の TOT(タイ国営電話公社)の寄付によりコンピュータールームを設置したそうです。

また休日には学校近くの子供達に解放しており、子供達もよく来るそうです。

障がい者の型でも使いやすいキーボードやマウスがありとても使いやすそうでした。また充実しておりました。

2017 年 5 月 22 日

入浴施設

ジャグジーになっておりとても快適そうに思えました。

総評

今回でタイの障がい者学校を合計４校訪問させていただいました。タイ全体に言える事ですがまだ貧富の差がまだ激しく、行政からの情報も乏しく、また行政が正確に障がい者の子供の数を把握しているかも疑問点でもあります。障がい者の親御さんもまた情報を得る機会が乏しく感じました。まだ貧しい人は村社会、コミュニティー内の情報源のみで情報を得るロコミ社会でもあります。その点を考えると、まだ子供用車椅子の数は圧倒的に足りないと言えます。

またタイ障がい者団体及び、障がい者学校の先生も子供用車椅子は圧倒的に少ないとおっしゃっておりました。今後なんとか台数を増やしてもらいたいとの要望もあり、ぜひタイ王国に日本の子供用車椅子を送る台数を増やせればと思っております。またタイには大人用の車椅子をタイ障がい者団体の下部組織の Thai Wheel という所で障がい者の方達が作っておりますので、当団体より未整備の状態で送ってもらう事も可能だとの事です。Thai Wheel で整備し各県の学校へ配布出来るとの返答を、今回の APHT 会長との会談で頂きました。

各県によってまた各学校によっても、また学校長の寄付の集め方によって施設の運営状態が異なる為にタイ全国の学校のレベルは一定ではありません。今回訪問したアントン県特別支援学校では、学校長の努力により学校の利用料は無料になっておりました。以前訪問したチェンマイの障がい者学校では年間 600 バーツの学費が掛かるように費用の面、学校の施設のレベルの面でも違います。

最後に現地受け入れ団体 APHT、タイの学校関係者達、現地団体とのやりとりに協力していただいた Bangkok Post 新聞社の Thanyarat さんに感謝を申し上げたいと思います。